

令和7年度F工房活動報告書

1. 学生ファシリテータ（学ファシ）の養成

1-1. 学ファシの人数

	4年次	3年次	2年次	継続	新規	登録	辞退など	合計
第15期	19名	25名	49名	37名	56名	93名	12名	81名
第16期	12名	37名	43名	44名	48名	92名	13名	79名

※第16期は令和8年度の年次で記載

※第16期「辞退など」内訳：辞退3名（両立困難など）、登録除外10名（研修無断欠席など）

1-2. 第15期後半の活動

1-2-1. 活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	「自己発見と大学生活（「自己大」）」 授業運営支援	令和7年 4月～7月（全14回） ※オンデマンド回は統括教員による動画配信のみ	学ファシはアイスブレイク運営や大学生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィードバックなどを行った。	実践
2	「先輩の体験談」スピーチ対策：駆け込み寺	令和7年 4月9日（水）、10日（木）	「自己大」第3回授業で学ファシが話題提供する「先輩（学ファシ）の体験談」スピーチに対する個別支援。希望者不在のため告知のみで実施せず。	その他
3	「自己大」授業運営支援 クラス状況報告	令和7年 4月18日（金）～ 4月25日（金） 6月9日（月）～ 6月16日（月）	「自己大」授業運営支援での各クラスの状況把握を目的に、各クラス2回のクラス状況報告を実施。	その他
4	第16期新規学ファシ 募集説明会の企画・運営	令和7年 5月中旬～7月下旬	第16期学ファシ募集説明会の企画・運営メンバーを募った。運営メンバーは、説明会に向け企画・発表内容を検討した。	その他
5	ふりかえりの集い	令和7年 8月1日（金）	約1年の学ファシ活動を振り返り、活動で得た学びや気づきを各自の今後に活かすことを目的に実施。	研修
6	学ファシ自主企画	—	学ファシの興味・関心や意欲に基づき、学ファシ自身によって複数回実施。	その他

1-2-2. 取り組みの成果と課題

1-2-2-1. 「自己大」授業運営支援

第15期学ファシは活動者81名のうち、春学期授業期間中は個人の事情により、「自己大」での活動には参加しない2名を除く79名が「自己大」授業運営に参加した（前年度68名）。今年度は学ファシの授業担当希望コマ数が例年以上に多かったこともあり、統括・副統括教員と相談し、試行的に1クラスあたり4名の学ファシを配置した（4名配置26クラス、3名配置4クラス：合計30クラス）。配置人数の多少については担当教員により様々な意見が聞かれ、次年度に向けて統括・副統括教員により協議がなされた。

教員同士の情報交換会では、複数の教員から「臨機応変な対応力が年々高まっている」「例年に比べて介入や声かけが細やかだった」といった声が寄せられ、事前研修の成果が感じられた。

1-2-2-2. 学ファシによる自主企画

今年度も、継続学ファシを中心に学ファシ自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画が複数行われた。主な企画は次の通りである。

・新入生 歓迎ワークショップ

「京産生の約半分が体験したアイスブレイク～みんなで楽しむ春のはじめまして祭り～」と題して本学の新歓祭にあわせて新入生歓迎イベントとして実施。企画から当日の運営方法やプログラム内容の考案や事前準備等是有志の学ファシが主体的に担った。当日は、アイスブレイクを通して参加者同士が自己紹介したり、楽しく会話したりしながら、初対面の人とも楽しく交流できる場を学ファシがサポートした。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20250405_875_gakufashi.html)

・Flat come on ヌ

学ファシの活動について知ってもらうこと、また学生同士の交流や、友達作りの第一歩となることを目的に有志の学ファシが企画・実施した。イベント前半は自分の興味や関心など自分を表すキーワードに#（ハッシュタグ）をつけて紙に書き出し、グループ内で発表し合う「#（ハッシュタグ）自己紹介」を行った。後半はフリートーク&質問タイムとし、参加者から学ファシへさまざまな質問があった。「学ファシが気軽に話しかけてくれたおかげでとても話しやすい空気で楽しかった」等の感想が寄せられ、企画者が場づくりにあたって大切にしたい「参加者が安心して参加できる場」を達成することができていた。

・ひるふあし

学ファシに興味を持っている学生に活動内容を知ってもらい、交流する機会を作ること、また活動中の学ファシが本イベントへの参加・運営を通して学ファシ同士の親交を深める機会を作ることなどを目的とし、有志の学ファシが企画・実施した。昼休みに実施することで、気軽に参加・交流し、また参加者が安心できる時間を提供することを目指した。今回初めて企画にチャレンジした企画者は今回の経験について、「不安はあったものの先輩や仲間に支えられ無事に終えることができ良い経験になった。参加者の笑顔が嬉しかった。」と振り返っていた。

・あそび学

演劇的手法や身体を使ったワーク等に関心のある学ファンから相談を受け、職員主導で実施した。身体をつかった遊びを通してコミュニケーションを取りながら、感覚から得た気づきを共有し、日常的な協働やコミュニケーションに結び付けて意見交換を行った。

・グラフィック練習会

グラフィックファシリテーションに関心のある学ファンが中心となって企画し、レクチャー部分を職員が担うかたちで実施した。初めての参加者に向けて、ペンの握り方など初歩的なレクチャーを取り入れ、お互いの話を聞きながら可視化する等の練習を重ねた。今後は新たな担い手育成に注力したい。

・FF会

ファシリテーションに関連する論文や本の読解を目的として活動した。一般的な読書会のように、文献の精読、理解だけを目的とせず、議論や検討のきっかけや、メンバー同士の交流や実践となることも主眼とした。夏季長期休暇中も含めて6月から11月まで月に数回程度の頻度で定期的を実施した。

1-2-2-3. 第16期新規学ファン募集説明会の企画運営

第15期活動者8名が企画・運営メンバーとして職員と共に募集活動を行い、募集説明会における学ファン担当パートの企画・運営を担当した。説明会では学ファン活動の体験談を発表し、オンライン質問ツールを用いた質疑応答も運営メンバーが進行した。説明会は3日間実施し、8名の企画・運営メンバーが各回を分担した。また、応募を検討している学生が持つ活動への不安を解消し、研修の雰囲気を経験してもらう目的で、募集説明会とは別日程で質問会と体験会をそれぞれ開催した。内容の検討や当日の運営も有志の学ファンが担った。質問会や体験会は、他の自主企画との内容の重複も見られ、募集説明会本会と合わせ内容の検討が課題である。

1-2-3. 第15期の総括

「自己大」担当教員から寄せられるフィードバックから、事前研修の学びを踏まえて介入や声かけの精度が高まったことが窺えた。

学ファン主体の企画の他、寄せられたリクエストに職員が応えるかたちで実現した企画も複数あり、多様なテーマの企画が実施された。一方で、企画・参加する学ファンは固定化の傾向が見られ、より多くの学ファンを巻き込んでいく工夫が必要である。

1-3. 第16期前半の活動

1-3-1. 活動一覧

	タイトル	日程	概要	分類
1	第16期 新規学ファン募集 説明会	令和7年 7月11日(金)、14日 (月)、15日(火)	新規活動希望者を対象に、学ファン活動の概要や応募方法等について説明。その後、学ファン担当パートにおいて運営メンバーが学ファン活動の体験談を学生目線で発表した。	説明 会

2	ファシリテーション 研修 【必須参加/全3回】	令和7年 9月26日(金)、10月30 日(木)、12月14日(日)	第16期学ファシ同士が関係性を構築すること、ファシリテータの役割を知り、その役割を果たすうえで大切な心構えやスキルについて体験的に学ぶことを目的に実施。4年次生サポーターが運営に参画した。	研修
3	「自己大」事前研修 【必須参加/全3回】	令和8年 2月10日(火)、3月24 日(火)、25日(水)	「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に、統括・副統括教員と協働しながら研修を実施した。	研修

1-3-2. 取り組みの成果と課題

近年、少しずつ成果があがっている学ファシが自ら活動の場をつくっていく仕組みづくりについて、さらに学ファシのなかに社会との接続の視点が醸成されつつあり、興味・関心やチャレンジの広がりが見られる。この意欲に応えるため、さらに多様な活動場面と協働の機会を学ファシと共に創出していきたい。

1-3-2-1. ファシリテーション研修

学ファシ同士の関係性構築とファシリテータの役割を知り、その役割を果たすうえで大切な心構えやスキルについて体験的に学ぶことを目的とする研修を実施した。令和6年度に実施時間と回数を見直して全3回とし、今年度はその形式での2年目となった。

研修の運営には、4年次生14名がサポーターとして関わった。このサポーターの人数はこの取り組みを開始した2020年度以降で最多となった。自分たちで学びの場をつくっていききたいという気概も年々高まっている。一方で、役割分担など運営の複雑さも増しているため、4年次生の意欲に応えつつ、研修の質を担保する工夫を検討したい。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(<https://www.kyoto-su.ac.jp/news/news-001789.html>)

1-3-2-2. 「自己大」事前研修

教員によるレクチャー内容を強化し、科目の目的や到達目標、全体構成を丁寧に説明したうえで、多様な人々と場を共有するために必要なマイノリティ属性に関する基礎知識を提供し、人権尊重の意識づけを行った。また、今年度も「受講生なりきりワーク」を行い、受講生視点を体験的に理解することで、多面的な気づきと知見を得る機会となった。さらに、ふりかえりを第1回はオンラインで、それ以外は対面で実施し、次年度に向けた学ファシへの要望を収集した。

1-3-2-3. 学ファシによる自主企画

・FCDX

「DX×ファシリテーション」の標榜のもと、2025年夏から半年間活動を行った。情報系の知識や技術の有無を問わず、集った学ファシが意見を出し合って技術的な開発とともに「DXを交えたファシリテーション活動」について検討した。具体的には、リアルタイムの音声・画像認識による対話支援、近距離無線通信による入退室支援など、複数のプロジェクトが進められた。

1-3-3. 第16期前半の総括

第16期の人数規模が第15期とほぼ同じであること、また4年次生サポーターが制度開始以来最多となったこと、これら2点は学ファシ養成部署としてのF工房が安定期に入ったことを示している。4年次生サポーターの尽力や学ファシの高い参加意欲により、ファシリテーション研修、「自己大」事前研修ともスムーズな実施・運営になったが、裏を返せば組織としては停滞、マンネリに陥る可能性もある。条件が整っているこのタイミングを好機ととらえ、より発展できるような組織的、個別的の双方で整備したい。

2. FDに関する取り組み

以下の2件の授業見学を行った。

・「プログラミング演習A」

情報理工学部 6月11日(木) 1・2限目

プログラミング言語 Python の演習授業であった。教員と受講生間、あるいは受講生間のコミュニケーションがスムーズになるように、着座位置やPCモニタの配置が工夫されていた。

・「法教育演習I」

法学部 1月7日(水) 12:30~14:00

グループ分けやワーク進行等の授業運営の大半を先輩学生が主体的に担っており、特に時間をかけたアイスブレイクでは互いに積極的に質問しあう姿勢を促す意図が感じられる設計であった。授業終了後はふりかえりが実施され、複数の教員や学生らの意見や感想が飛び交い、ざっくばらんに協議・検討する時間が生まれていた。こうした運営スタイルは、F工房における研修運営スタイルとの親和性が非常に高いと感じた。

3. F工房サポートプログラム

3-1. 概要

・依頼件数：9件 ※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照

3-2. 特徴的な取り組みと課題

・生命科学部新入生オリエンテーション運営支援

約1年前に教員より導入に関する相談があり、他学部で実施している様子を見学するなどの検討を重ね、学部事務室の職員とも協働して実施に至った。他の理系学部と同様、新入生同士の関係性構築と不安解消を目的とし、当日は学部先輩学生と学ファシ、教員が協働しながら新入生を歓迎し、安心・安全な場づくりを行った。

・文化学部ゼミの活性化に関する支援

3年次生対象の「国際文化演習IA」および2年次生対象の「国際文化基礎演習A」におけるゼミ活動の活性化について担当教員より授業見学とフィードバックの依頼があった。見学終了後、

担当教員に対してフィードバックおよびヒアリングを実施し、教員がゼミ生に求める学びの姿勢や伝達すべき意図を整理するとともに、今後の方針を見直す契機とした。

・現代社会学部「リーダーシップ入門」への学ファシ派遣

担当教員の依頼に基づき、アクティブラーニングを行う第6回以降の授業に学ファシが支援参加した。春学期1クラス、秋学期2クラスはそれぞれ150～300名弱と受講生が多く、それぞれ3～4名が参加した学ファシにとっては「自己大」とは異なる経験、実践となった。

・共通教育科目「ファシリテーション入門」授業支援

本科目での協働は、学ファシ対象の「ファシリテーション研修」や「自己発見と大学生活事前研修」をブラッシュアップするための、試験的な実践の場として本科目を位置づけてはどうかという担当教員からの提案のもと実現に至った。実際の協働は、日常業務では試しにくい新たな取り組みに挑戦できる貴重な機会となった。今後の協働については、F工房の中長期的な取り組みや方向性ととも検討していきたい。

3-3. F工房サポートプログラムの総括

近年、サポートプログラムにおける学ファシとの協働を積極的に取り入れてきたが、今年度は依頼の時点で職員のみサポートを希望する案件が多く、学ファシとの協働が実現したものは少なかった。学ファシの活躍の場を増やすうえでも、学生主体の学びの場づくりの文化を醸成するためにも、今後はF工房サポートプログラムおよび学ファシの学内認知を高めることに注力したい。

4. 学外での発表・講演

4-1. 学外への講師派遣 実施なし

4-2. 学外での発表

・大学教育学会第47回大会 自由研究発表Ⅱ

令和7年6月8日（日）13：00～15：00 桐蔭横浜大学

「準正課に参加する学生の成長実感測定の試み：京都産業大学の学生ファシリテータを事例として」

発表者：F工房職員3名、高等教育担当職員3名、事務長

概要：大学教育において、正課だけではなく正課外教育を通じた学生の成長実感や成長実感を促すプロセスである教職員の関与を明らかにすることは、学習者主体の教育の実現に向けて重要である。本ポスターセッションでは、正課外教育を通じた学生の成長と教職員の関与の事例として、F工房の変遷と学ファシを養成するプログラム、学ファシの成長実感について発表した。

・日本ピア・サポート学会第23回研究大会・下関大会

令和7年10月11日（土）、12日（日） DREAM SHIP（下関市生涯学習プラザ）

1) 研究・実践発表

「教員・職員・学生が協働する学生ファシリテータ養成における中間支援の役割」

発表者：委託業者2名、F工房職員1名、本学教員3名

概要：本学における学生ファシリテータ養成の実践について、教員・職員・学生が協働して運営体制を構築し支援実践を重ねた学習共同体形成と、業務を委託した業者による中間支援の役割を考察し、委託業者（外部ファシリテータ）と連名で発表した。業務委託した3年半の研修プロセスを対象に、対話とグラフィックファシリテーションを活用し、自ら研修の場をつくる体験をデザインすることで学生が授業の支援者にとどまらず、授業のつくり手として関わる文化が醸成されていることを発表した。また、研修設計が学生の主体性と支援スキルを高め、協働的な運営体制の構築に寄与することを示した。また、中間支援の設計的関与が制度と実践をつなぐ一因となっている可能性を示し、大学教育におけるピア・サポートの発展への可能性を広げる視点を提示した。

2) 自主シンポジウム

「学生ファシリテータとしての授業参画は、彼らにどのような変化や成長をもたらすか？」

発表者など：委託業者（企画）、委託業者（司会）、F工房職員1名（話題提供）、学ファシ4名（登壇）、本学教員1名（指定討論）

概要：学ファシの「自己大」授業参画活動における変化や成長についてのシンポジウムを実施した。F工房職員より学ファシ制度のねらい・概要・研修の時期や内容について紹介した。その後、司会者である外部ファシリテータからの問いかけをテーマとしながら、学ファシ4名が各々の回答を述べる形式で進行した。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(<https://www.kyoto-su.ac.jp/news/news-001988.html>)

・大学教育学会 2025 年度課題研究集会 ポスターセッション

令和7年11月15日（土）10:30-12:45 東京大学 本郷キャンパス

「準正課を行う学生の成長実感と成長プロセスの測定方法確立を目指して—F工房が養成する学生ファシリテータを対象にした調査計画を事例に—」

発表者：F工房職員4名、高等教育担当職員4名、事務長、センター長、副センター長

概要：教育支援研究開発センターでは、第15期学ファシに結成時（Time1）、研修終了時（Time2）調査、活動終了後（Time3）調査を実施し、個別フィードバックをしている。今回のポスターセッションでは第15期学ファシを事例として、成長実感や成長プロセス測定方法の確立を目指した調査計画、3時点で回答データがマッチングできた学ファシの成長実感の変化について報告した。

・大学コンソーシアム京都 第31回FD・SDフォーラム ポスターセッション

令和8年2月28日（土）同志社大学 今出川キャンパス

「ファシリテーションのDX —作りながら考えるファシリテーションの可能性—」

発表者：F工房職員2名、学ファシ12名

概要：学ファシのプロジェクトチーム「FCDX」は、ファシリテーションにおけるDXの可能性を模索すべく、2025年夏から漸次的に組織された。現在は、リアルタイムの音声・画像認識による対話支援、近距離無線通信による入退室支援など、3～4のプロジェクトが進行している。FCDXは技術開発のみが目標ではなく、その開発過程でのファシリテーション自体の洞察、また

技術やプログラミングになじみが少ない学生のプログラミングへの啓発など、多様な波及効果が期待される。本発表では、現在進行中のプロジェクトの状況を、その課題とともに具体的に示した。

5. 学外機関との協力 実施なし

以上

(別紙) F工房によるF工房サポートプログラム実績:プログラム種類別の詳細

1) 学内他部署との協働 (3件)

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
4/3	新入生オリエンテーション (2025年度入学生対象)	生命科学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファン派遣、プログラム運営者(学ファン、学部の先輩学生、教員)向け事前研修の運営
4/4	導入教育プログラム「自己の探求プログラム」 (2025年度入学生対象)	理学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型グループワークプログラムの設計支援、学ファン派遣、プログラム運営者(学ファン、学部の先輩学生、教員)向け事前研修の運営
4/4	新入生グループワーク (2025年度入学生対象)	情報理工学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファン派遣、プログラム運営者(学ファン、学部の先輩学生、教員)向け事前研修の運営

2) 授業の支援 (6件)

共通教育科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
4/8~7/17	自己発見と大学生活	初年次教育センター	30クラス ×14回			○	全30クラス、15コマ(うち1コマはオンデマンド)への学ファン派遣、学ファン向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間(4月~7月)における学ファンの活動支援
秋学期	ファシリテーション入門	共通教育推進機構 (教員)	12回		○		学ファン養成のための研修をブラッシュアップを目的とした試験的な実践の場として、オンデマンド回を除く秋学期授業期間中(10月~1月)の授業の設計および運営支援

学部専門科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
5/15	国際文化演習ⅠA	文化学部		1			3年次生のゼミ活動の活性化について授業見学のうえ職員からフィードバックを行う
5/15	国際文化基礎演習A	文化学部		1			2年次生の基礎ゼミ活動の活性化について授業見学のうえ職員からフィードバックを行う
春学期	リーダーシップ入門	現代社会学部				○ 全8回	第6回~13回授業への学ファン派遣。担当教員とともにグループワークや受講生がプロジェクト課題にグループ単位で取り組む場をサポート
秋学期	リーダーシップ入門	現代社会学部				○ 全8回	第6回~13回授業への学ファン派遣。担当教員とともにグループワークや受講生がプロジェクト課題にグループ単位で取り組む場をサポート

3) 課外活動の支援 (0件)

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要